

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3833249号
(P3833249)

(45) 発行日 平成18年10月11日(2006.10.11)

(24) 登録日 平成18年7月28日(2006.7.28)

(51) Int. Cl.

F I

A 4 7 F 5/00 (2006.01)

A 4 7 F 5/00 E

A 4 7 F 5/08 (2006.01)

A 4 7 F 5/08 Z

G 0 9 F 7/18 (2006.01)

G 0 9 F 7/18 D

請求項の数 10 (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平8-515246
 (86) (22) 出願日 平成7年11月3日(1995.11.3)
 (65) 公表番号 特表平10-509528
 (43) 公表日 平成10年9月14日(1998.9.14)
 (86) 国際出願番号 PCT/SE1995/001303
 (87) 国際公開番号 W01996/014630
 (87) 国際公開日 平成8年5月17日(1996.5.17)
 審査請求日 平成14年9月18日(2002.9.18)
 (31) 優先権主張番号 9403775-1
 (32) 優先日 平成6年11月3日(1994.11.3)
 (33) 優先権主張国 スウェーデン(SE)

(73) 特許権者
 ブライサー エイビー
 スウェーデン国 エス-754 51 ウ
 プサラ クリスタレン (番地なし)
 (74) 代理人
 弁理士 三好 秀和
 (72) 発明者
 オドマルク、 オラ
 スウェーデン国 エス-756 48 ウ
 プサラ ウルサクスヴェーゲン 5
 審査官 櫻井 茂樹

(56) 参考文献 実公昭46-2196(JP, Y1)
 特公昭59-42307(JP, B2)

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 情報担体をフックに取り付けるためのアダプタ

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

外端部で横断部(40)を介して連結された一対の略平行に延出する脚(13、14)によって作られる商品ディスプレイワイヤブラケットの外端から情報担体をつるすための取り付け部材であって、

前記取り付け部材はアーチ形ブラケット(8,30,30')を備え、前記アーチ形ブラケットは前記ワイヤブラケットの前記横断部の周囲にループを形成するために可撓性を有し、前記取り付け部材を前記情報担体に接続するように形づくられている前記可撓性ブラケットの端部によって前記情報担体へ接続可能であり、前記取り付け部材は第1のポジションでは商品ディスプレイブラケットの先端から垂直に下がっており、

前記取り付け部材は前記ループ内に延出する出っ張り部(12)を有し、前記出っ張り部(12)の寸法は、前記ワイヤブラケットの平行脚間の距離に一致し、第2のポジションでは、前記取り付け部材の前記出っ張り部が前記ワイヤブラケットの前記脚(13、14)の間に挟まれて取り外し可能に固定されることを特徴とする。

【請求項2】

前記アーチ形ブラケットの第1の端部はプレート(9)に接続し、前記アーチ形ブラケットは第2の端部(11)を持ち、前記プレートの上部の上にアーチ形状して広がり、前記プレート(9)と前記第2の端部(11)は前記取り付け部材を前記情報担体と接続するために作られ、前記出っ張り部(12)は前記プレートの上側から前記ループ内に延出し、前記出っ張り部は前記第2のポジションをとった際に前記ワイヤブラケットの前記脚部(13,14)の間で取

10

20

り外し可能なように固定されるための窪んだ側面(15)を有する請求項1の取り付け部材。

【請求項3】

前記取り付け部材と前記情報担体とを取り外せないように接続するために前記情報担体に配置されるスナップ固定手段と結合するスナップ固定手段が前記取り付け部材に形成されている請求項2の取り付け部材。

【請求項4】

前記取り付け部材を閉ループの形とし取り外せないように固定するためのスナップ固定手段が前記取り付け部材に形成されている請求項2の取り付け部材。

【請求項5】

請求項1乃至4のいずれか一項の取り付け部材と、前記取り付け部材に接続可能な情報担体とを含む取り付け部材アセンブリであって、前記取り付け部材アセンブリは、30×5mmサイズの送り穴を通過可能な断面形状と寸法であることを特徴とする。

10

【請求項6】

前記断面形状と寸法は、ドイツ工業標準規格(DIN)55 612Teil 1-1977に従う形状とサイズの送り穴を前記取り付け部材アセンブリが通過するサイズである請求項5の取り付け部材アセンブリ。

【請求項7】

前記情報担体(1)が一端に、前記取り付け部材の前記端部を受け入れるように形作られた凹部(6)を持つ請求項5の取り付け部材アセンブリ。

【請求項8】

20

前記凹部(6)が、前記アーチ形ブラケット(8,30,30')の一端に接続される前記プレート(9)を受け入れるために形成され、そして前記アーチ形ブラケットの前記第2の端部(11)を受け入れるための溝(7)が、前記凹部(6)に形成される請求項7の取り付け部材アセンブリ。

【請求項9】

前記情報担体(1)が価格を表示する窓(3)を持つ光電発動価格タグである請求項5の取り付け部材アセンブリ。

【請求項10】

前記情報担体(1)が30mm未満の幅と少なくとも3.5mm多くても4.5mmの厚さを持つ請求項9の取り付け部材アセンブリ。

【発明の詳細な説明】

30

本発明は、情報担体をセットパッケージング用に設けられた取り付けホルダあるいは商品ディスプレイブラケットの外端部につるすための取り付け手段に関し、本発明の好適な実施例は、光電発動の価格記録装置を商品ディスプレイブラケットから吊すための取り付け手段を提供することを目的とする。

この種の価格記録装置すなわち価格タグは例えば、商品のセット価格、卸売り価格、通常価格、臨時価格などを表示するのに店で用いられる割合が増えている。これらの価格タグは光電セルによって発動し、価格を示す窓を有し、価格窓をリモートコントロールしてそれぞれの価格タグ同士を相互に連動させる少なくとも一つのセンサ手段を備えている。こうした価格タグは公知であり、本発明は取り付け手段、すなわち、パッケージが商品をディスプレイするための取り付けホルダに吊されるように構成されている価格タグあるいは他のあらゆる情報担体を商品の価格を示すのに用いるようにするための取り付け手段に関するものであり、価格タグの内部構造と機能についての詳細な説明はここでは省略する。通常この種の価格タグはディスプレイされている商品の価格を示すためにその商品の置かれている棚の縁か、果物その他のかさばる商品の価格を表示するためのロッド上に取り付けられるようになっている。

40

これ以外の一般的な商品ディスプレイとしては、例えばプラスチックカバーなどのさまざまな種類のセット用パッケージを備えたものがある。プラスチックカバーは商品を裏あての厚紙に固定させる、いわゆる「プリスターパック」と呼ばれるものである。この厚紙の上部には、保管やディスプレイのために取り付けホルダ上に吊す細長く、水平な送り穴がある。これにより、送り穴はブラケット形状の取り付けホルダから、あるいは単純なワイ

50

ヤロッドから所望によりつり下げられるようになっており、送り穴には上部を定義する端に中心部によった半円状の凹部が設けられている。同様な取り付けホルダと関連する別の種類のパッケージは、例えば折り重ねられた厚紙を有するバッグを備え、バッグを閉じるためにバッグの口にとじ金を介してこの厚紙が固定されている。厚紙にはホルダにバッグを吊すための上述の種類の細長い穴が設けられている。

ブラケット形の取り付けホルダは伸長したブラケットの形をしている。このブラケットは、2つの平行に延出する脚が外端部において横切る、好ましくはアーチ形の断面によって連結されており、この外端部はわずかに上方に曲がっていることもあり得、脚の内端は例えば穴あきレールと係合してブラケットをほぼ水平方向に固定するような形状をなしている。ワイヤブラケットは単一の部材を曲げた形状をしている。

10

上述のディスプレイは世界中で用いられており、取り付けホルダと送り穴のサイズには一定の標準が設定されている。例えば、DS 903 (オランダ国標準)、SS 847009 (スウェーデン国標準)、DIN 55 612 Teil 1 - 1977 (ドイツ国標準)などを参照されたい。したがって「ユーロホール」という用語は標準化送り穴に関する技術において登場する。少なくとも2つのサイズの送り穴と関連の商品ディスプレイブラケットがあるわけだが、本発明は大きいサイズのブラケットとの使用を目的としていることに注意されたい。しかしながら、本発明の趣旨は外部の大きさを調整することによって小さいサイズのブラケットに関しても実施可能であると認められる。

ワイヤブラケットから吊されるセットパッケージは通常非常に密接してディスプレイされるので、多くの場合、この種の価格タグをワイヤブラケットの取り付けレールに取り付け

20

るのに十分な広さがとれない。本発明によれば、取り付け手段と価格タグを商品ディスプレイブラケットの先端に吊すことができるように設計することでこの不都合が解消される。

本発明の取り付け手段は他のあらゆる情報担体、例えば価格、適用分野、内容説明などの商品に関する印刷化された情報を伝える標識に用いてもよいということを強調しておきたい。しかし、本発明は上述の使用に関して説明する。

よって、本発明の第1の目的は、情報担体を取り付けホルダすなわち商品ディスプレイブラケットから吊すことを可能にする取り付け手段を開示することである。

本発明の第2の目的は、商品ディスプレイブラケットと協動するための取り付け手段を有する光電発動価格タグを開示することである。

30

この第1の目的は添付の請求の範囲第1項に記載の取り付け手段によって達成され、第2の目的は請求の範囲第3項に記載の価格タグによって達成される。

本発明を添付の図面を参照してさらに詳細に説明する。図面において、

図1aおよび図1bは商品ディスプレイブラケットあるいはワイヤブラケットに取り付けられる前の位置にある情報担体/価格タグおよび取り付け手段の一実施例の斜視図であり、

図2は標準送り穴、いわゆる「ユーロホール」の拡大正面図であり、

図3は商品再供給位置における取り付けられた価格タグと取り付け手段の斜視図であり、

図4は図3に対応する斜視図で、商品がワイヤブラケットから取り外され得る位置での本発明を示しており、

40

図5はワイヤブラケットの先端横断面の周りに組み立てられる前の、折り重ねられていない状態での取り付け手段の好適な実施例を示すものであり、

図6はワイヤブラケットに取り付けられた図5の取り付け手段の縦断面図であり、

図7は図5、図6の取り付け手段を上から見た図であり、

図8は矢印V I I Iの方向から見た図6の取り付け手段の端面図であり、

図9は図6のI X - I X線で切り取られた取り付け手段の断面図であり、

図10は図9に対応する取り付け手段の別の実施例の断面図であり、

図11は取り付け手段の別の実施例の側面図である。

図1aを参照すると、情報担体は参照符号1として示され、例えば価格タグ1を構成する。本体5において、情報担体すなわち価格タグ1は電源としての光電セル2、価格窓3、

50

価格窓への制御信号を受信し、別の価格タグと相互に連動する一対のセンサ手段4とを具備している。本発明は商品ディスプレイブラケットと協働する情報担体/価格タグの取り付け手段の機械的設計に主眼を置いているので、価格タグの公知の機能と内部構成についての詳細な説明はここでは省略する。

価格タグ1は断面寸法を有しており、これがいわゆる「ユーロホール」に適用され、この「ユーロホール」を介して価格タグが挿入され得る。「ユーロホール」とはセット用パッケージ17の送り穴18である。この送り穴が商品ディスプレイブラケット(図2参照)と協働する。このために、この実施例の価格タグ1の幅は30mm未満、厚さは約3.5から4.5mmであり、縦の縁は好ましくは丸くなっているかまたは縦の側面を例えば半円状になしている。開示のサイズでは、送り穴の寸法は水平の長さが30mmで、送り穴の端部は半径2.5mm、幅5mm、送り穴の上部を定義する縁の半円凹部19の半径は5mmである。

10

2端のうち的一方の端部で、使用時に上方にくる端部において、価格タグ1は好ましくは矩形断面を有し、本体幅の実質部分に沿って延出する凹部6を備える。溝7を凹部の2つの限界面の一つに設けてもよい。凹部と溝それぞれの軸長はこのあとでより詳細に説明する方法で取り付け手段を受けるように調整する。

取り付け手段は、図1aの参照符号8で示される部分を指し、全体として可撓ブラケット8を形成する。取り付け手段8は略矩形で比較的薄い底部すなわちプレート9を備えており、その一端からブラケット10が延出する。ブラケット10は略弧状でプレートの上面を自由端が横切る形で延出している。ブラケットの自由端にはピン11が好適に形成され、所望の場合には取り付けられた状態でその断面形状は溝7に受け入れられ、固定されるように調整される。

20

底部すなわちプレート9の上面には出っ張りすなわちボス12が備えられている。この実施例によれば、出っ張りすなわちボス12はブラケット10の延長であって、ブラケット10からプレート9への過渡部にブラケット10から離れるように延出してもよい。ボス12の高さおよび厚さは平行に延出するブラケットの脚13、14間の距離に応じて決められる。ボス12は、図3に示すように取り付け手段がワイヤブラケットと軸合わせされるとき、ブラケットの脚の間に取り付け手段をクランプ固定させるための窪んだ側面15を有している。

取り付け手段8と価格タグ1を取り付けた後、ブラケット10はワイヤブラケットの先端における脚間の横断部を囲むように配置され、取り付け手段のプレート9とブラケットの自由端11は価格タグの凹部6と溝7にそれぞれ挿入され、価格タグの凹部6と溝内に固定される。この2つの構成要素を永久に固定するために、プレート9には例えばフック、のこ歯切欠きまたはこの実施例のように、公知の方法で(図示しない)合わせ部材またはショルダと凹部6の内面で係合する弾性舌状部材16の形状をしたロック部材が設けられている。

30

図3はブラケットの先端に吊される本発明の価格タグを有する商品ディスプレイブラケットにパッケージを再供給する状態を示している。ボス12をブラケットの脚の間で強く把持した状態で、取り付け手段と取り付け手段に取り付けられた価格タグは商品ディスプレイブラケットの延長線上に延出する。これによって、送り穴18を有するパッケージ17は容易に価格タグと取り付け手段を通過して、商品ディスプレイブラケット上に保管され得る。取り付け手段のブラケット10はこうして送り穴の上部縁の半円状凹部19を通過する。再供給が完了したら、価格タグは手動で商品ディスプレイブラケットの脚との係合を解くことができ、ブラケットの先端から直角にぶら下がる。

40

パッケージが商品ディスプレイブラケットから取り外されるとき、図4の二重矢印にしたがって、価格タグは送り穴をスライドするように前方に振れ、またパッケージが外されると後方に振れてブラケットに垂直にぶら下がる。

ブラケット10と取り付け手段全体は例えばポリアミド、ポリプロピレン、可塑ポリスチレンなどの合成材で好適に製造される。ブラケットはその延長部の主要部に沿って半円あるいは弧状断面をなすのが好ましいが、図1bに示すようにプレートに接続する前に価格

50

タグのぶら下がる位置での横方向の安定性をより優れたものとするために最小半径の部分で断面を薄くして、遮蔽部20を有するようにしてもよい。

図5から9は好適な実施例の取り付け手段の拡大図であり、図5は側方立面図で、伸長位置での取り付け手段/ブラケット30を示す。

図5によれば、取り付け手段/ブラケット31は弧状断面あるいは円形横断面を有し、比較的薄い底部/プレート32に併合するように31A部で薄くなっている。出っ張り/ボス33はプレートの上面に延出し、この出っ張りの側面は図9の断面図に示すように凹状あるいは谷状をなす。ボス33は弧状の滑り面を有するという特徴があるので、パッケージの再供給の際に商品ディスプレイブラケットの上に容易に押すことができる。取り付け手段が商品ディスプレイブラケットの脚の間に固定されるように、ボスの前端も谷状にして、ワイヤブラケットの横断面との係合点35を持つようにしてもよい。図10に示すように、別の実施例においては、ボス33の底面をくりぬいて、側面に弾性壁45を形成して、弾性変形して商品ディスプレイブラケットの脚の間に取り付け手段を取り外し可能に固定するようにしてもよい。

10

図面に示すように、底部すなわちプレートの前端および右端を、好ましくは協働する価格タグに接触する肩面と、好ましくは公知の方法で図面の左手のブラケットの合わせピン部材39にスナップ固定させるためのばち形スロット部材38などのスナップ固定部材38とを有する略矩形のピン部材36として形成し、取り付け手段30を取り外し不能に自己固定して、閉ループ、すなわち道具を用いて壊すことによってのみ開くループの形状をなすようにする。

20

取り付け手段の最も薄い部分31Aと35の材料厚は商品ディスプレイブラケットの脚とパッケージの送り穴の間の間隙に合わせるようにしなくてはならず、よってほぼ10分の2ミリから20～30分の2ミリにすればよい。したがって、当該材料は、図6に示すように、部分31Aが脚の架橋横断面の周りで湾曲するときに、高引っ張り強度を持ち、しかも可撓な材料であることが求められる。取り付け手段全体の製造には例えばポリアミド、ポリプロピレン、可塑ポリスチレンなどの合成材料を用いることを本発明では提案するが、最適な物理的強度を得るために当該材料を詳細に構成することについては当業者に任せるものとする。また、取り付け手段をバネ鋼などの金属によって製造することも考えられる。

断面形状は当然ながら、図8の端面図に示すように、パッケージの形状と寸法に合せて調整するものと理解できる。

30

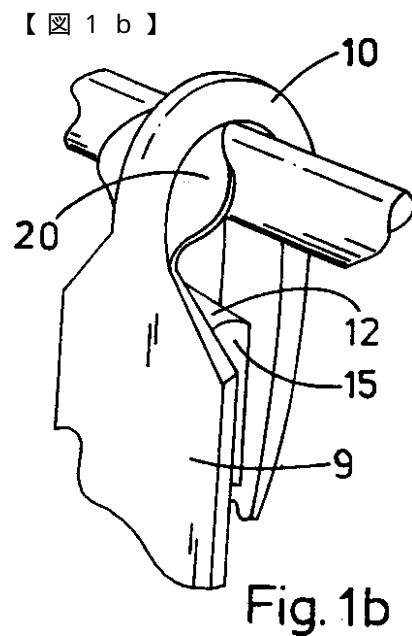
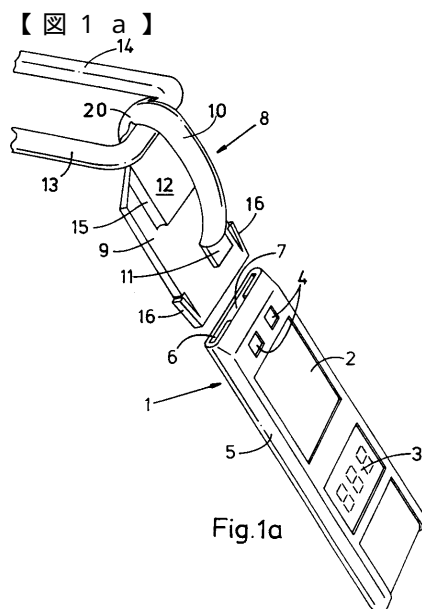
次に図7のB-B線で切り取った取り付け手段の縦断面図である図6を参照すると、ブラケット31は商品ディスプレイブラケット40の横断部40の周りで折り重ねられている。これは部分31Aでブラケットの折り重ねられた部分に旋回可能に軸支される。これによって、ピン部材39はスロット38でスナップ固定によってピン部材36に固定接続し、仮想線で概略図示した価格タグ1の凹部に挿入される。セット用パッケージの裏面42の送り穴部分は商品ディスプレイブラケット41にねじ込ま、送り穴43にその中心部に位置する半円凹部と共に示されている。

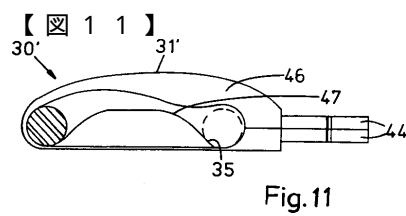
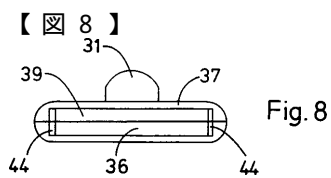
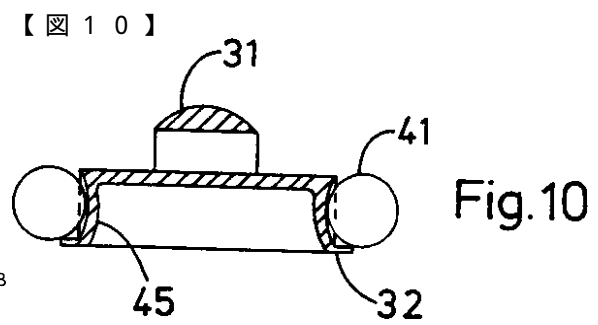
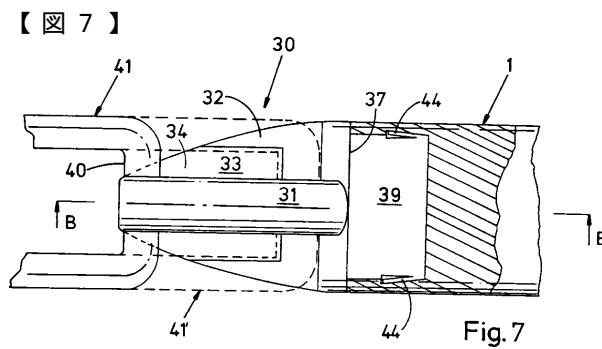
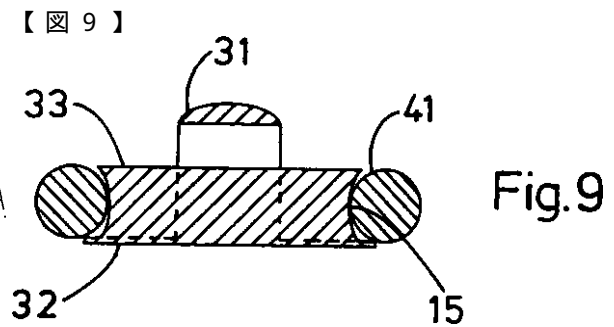
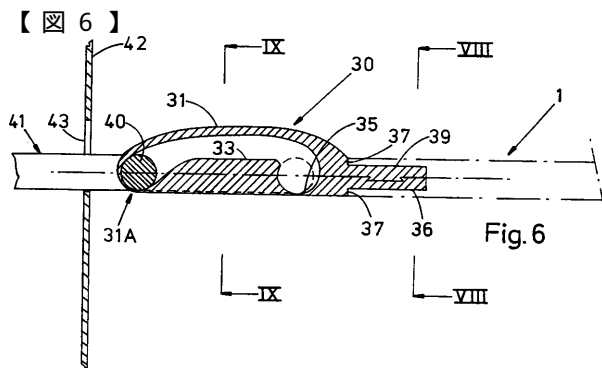
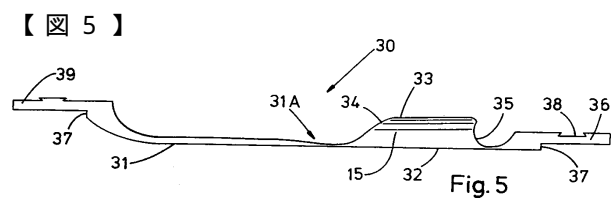
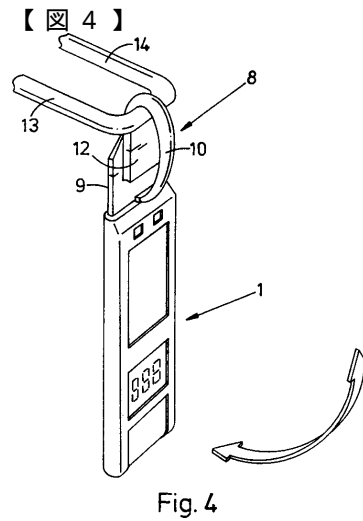
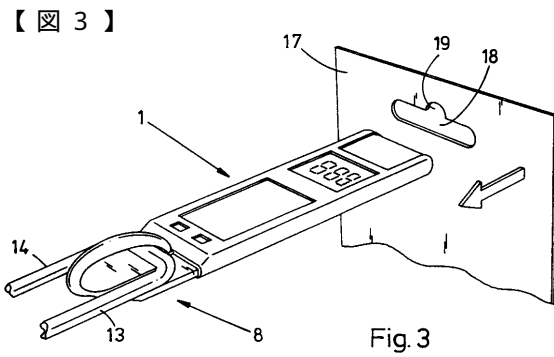
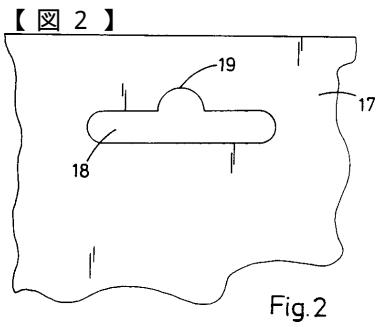
図7は部分的に途切れた価格タグ1に取り付けられ、ワイヤブラケット41の先端に固定される取り付け手段30を上から見た平面図である。破線はパッケージのねじ合わせ部分41'のワイヤブラケットが空間35内で静止し、ボス33の側面と固定係合することにより、取り付け手段および価格タグ1をワイヤブラケットあるいは商品ディスプレイブラケットと軸が同一になるように取り外し可能に固定する状態を示している。ボスはブラケット31を押し下げることでワイヤブラケットの脚から取り外される。その後、取り付け手段および価格タグは手動で図面の右手方向に押され、ワイヤブラケットの先端部40が可撓ブラケットとボスの上面の間をスライドするので、ブラケットの折り重なった部分31Aで再び静止する。さらに図7は弾性舌状部材44として設計されるピン39の各固定部材44が、取り付け手段30を価格タグ1に永久固定するために価格タグの凹部のくさび形の空間と係合する状態を概略的に図示している。底部のピン部材36も、フック、のこ歯切欠き、舌状部材あるいは同様な手段の固定部材を備えるようにしてもよい。

40

50

図 1 1 は取り付け手段 3 0 ' の別の実施例を示している。ここでは、ブラケット 3 1 ' の底面に出っ張り 4 6 を備え、ボス 3 3 ' は円形の前端 4 7 を有する。これによって、ホルダの横断面の好適に定義した静止点を維持しつつ、空間 3 5 において取り付けホルダを滑らかに移動させ、スナップ固定させることができる。同時に、ブラケットの形状永続性は向上し、ホルダの脚との固定からボスの押し下げまでのブラケットの操作性も向上する。本発明は特定の使用条件に関して説明してきたが、先に述べたように、取り付け手段を図面で示した電子価格タグとは別の種類の情報担体に用いることもできる。よって、当業者であれば上述の価格タグと同様なやり方で凹部に取り付け手段を受ける情報担体を設計することは容易であろう。





フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B名)

G09F 1/00 ~ 7/22

A47F 5/00 ~ 8/02